

2017 年度第 9 回支部集会【四国支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会
共催：国立大学法人愛媛大学国際連携推進機構
後援：公益財団法人愛媛県国際交流協会
開催日：2017 年 12 月 16 日（土）
会場：愛媛大学城北キャンパス 共通講義棟 A 4 階
参加者：80 名（会員 21 名・一般 59 名）



開
会
式

四国支部の支部集会が愛媛大学城北キャンパスで開催されました。四国とは思えない寒さの中、愛媛県内や四国内外から多くの方々に御参加いただきました。四国支部ではじめての支部集会を記念して開会式では、「公益社団法人日本語教育学会の役割」、事業説明「理念体系と新たな支部活動について」が支部活動委員によって行われました。その後、「2017 年度日本語教育学会秋季大会参加報告会」「現場から発信！四国の日本語教育研究事情」「つながり作りの情報共有会—四国の日本語・国際交流ボランティアの活動—」「交流ひろば」「講演」と 5 つの企画が実施されました。



研究紹介



情報共有会



交流ひろば



講演

四国内の学会員の協力で実現した「研究事情」紹介では、各県の現場に関わる研究の紹介ということもあり、地域のボランティアや行政関係者も訪れ、紹介後も積極的な意見交換が行われていました。また「情報共有会」には愛媛県内を中心に四国内の 18 の日本語教育・国際交流関係団体の出展がありました。参加者は各団体の活動紹介ポスターを見つつ、活発な意見交換がなされていました。「交流ひろば」のそれぞれのブースでは、お互いの悩みや情報の共有が行われ、日ごろの実践・教室活動を考える貴重な機会となりました。衣川隆生氏（名古屋大学）による講演は「行動体験を通して一人一人に必要なことばを紡ぎだしていく教室活動 - 豊田市での実践から - 」という題目で、ワークショップも含んでおり、参加者も積極的に発言していました。

参加者からのアンケート結果によると、「有意義な交流会で多くのアイデアと学びがあった」等好意的なコメントも多かった一方で、盛りだくさん過ぎたため「もう少し時間がほしかった」「日本語教育に関心が高い人のみの会で一般の方にとっては敷居が高い」等、今後の課題につながる意見もありました。

今回の四国の支部集会は、学会と地域とをつなぐことを第一の目的としていました。その意味では、参加者の過半数が一般で占められたこと、その多くが地域の日本語支援者・行政関係者であったことで、当初の目的は達成できたと思われれます。この集会で生まれた「つながり」を活かし、今後も地域に開かれた支部集会・支部活動を継続していきたいと思えます。

最後になりましたが、愛媛県・四国内の多くの方々のご協力のおかげで、このような有意義で多彩な形で開催し、終えることができました。あらためて当日の参加者や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（報告者：支部活動委員 高橋志野・山下直子）